

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 社会福祉法人小田原福祉会

研修事業の名称 介護職員初任者研修

1 職務の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法			
①多様なサービスの理解	3 時間	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス（居宅・施設）と介護保険外サービスについて理解する。</p> <p>《演習内容》</p> <p>1. 視聴覚教材（DVD）を鑑賞後、介護職が働く現場や仕事の内容を理解する。サービス提供現場の具体的なイメージについてグループディスカッションを行う。</p> <p>《見学》</p> <p>1. 法人内事業所を見学し更にイメージをもたせる。</p>			
②介護職の仕事の内容や働く現場の理解	3 時間	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 多様な居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。講師による講義の他、様々な働く現場について視聴覚教材を活用して理解を深める。</p> <p>2. ケアプランから始まるサービス提供に至るまでの一連の流れ、とチームアプローチ、多職種との連携等、介護サービスの提供について葉のイメージを持たせる。</p> <p>《演習内容》</p> <p>1. 講師の現場体験談や知識、情報から各種サービスの様々な提供現場の具体的なイメージを解説し、介護職が現場で働く内容について質疑応答を交え、グループディスカッションをする。</p>			
合計	6				
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要

①人権と尊厳を支える介護	4.5 時間	3時間	1.5 時間	1	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 人権と尊厳の保持 個人としての尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、役割りの実感、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護を学ぶ</p> <p>2. ICF 介護におけるICFを学ぶ</p> <p>3. QOL QOLの考え方、生活の質について学ぶ</p> <p>4. ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方について学ぶ</p> <p>5. 虐待防止、身体拘束禁止 ・身体拘束禁止、高齢者の虐待防止法、高齢者の擁護者支援を学ぶ</p> <p>6. 個人の権利を守る制度の概要 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業を学ぶ</p> <p>《演習内容》</p> <p>・尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れた介護の目標や展開についてグループ検討発表を行う。</p> <p>【添削課題の出題ポイント】</p> <p>①高齢者のための国連五原則 ②QOLの考え方 ③ノーマライゼーションの考え方 ④バリアフリーとユニバーサルデザイン ⑤高齢者虐待の種類 ⑥身体拘束マニュアル ⑦医療分野における人権の尊重</p>
--------------	-----------	-----	-----------	---	--

②自立に向けた介護	4.5 時間	3時 間	1.5 時間	2	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 自立支援 自立・自律支援、残存機能の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性・個別ケア、重度化防止を学ぶ</p> <p>2. 介護予防 介護予防の考え方について学ぶ</p> <p>《演習内容》 検討事例を示し、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアについてグループワークを行う。</p> <p>【添削課題の出題ポイント】</p> <p>①自立支援 ②自己選択・自己決定の効果 ③介護予防</p>
合計	9	6	3		

3 介護の基本（ 6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と 多職種連携	2.0 時間	1.5 時間	0.5 時間	3	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 介護環境の特徴と理解 ・訪問介護と施設介護の違い、地域包括ケアの方向性を学ぶ</p> <p>2. 介護の専門性 ・重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種からなるチームについて学ぶ</p> <p>3. 介護に関わる職種 ・異なる専門性を持つ多職種の理解 ・介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師とチームになり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担、チームケアの重要性、役割分担を学ぶ</p> <p>《演習内容》 事例を取り上げ、グループワークで講義で学んだ内容を咀嚼し、医療職等の連携、また、ご家族、介護支援専門員への報告、事業所との連携の仕方について検討をしてする。</p> <p>【添削課題の出題ポイント】</p> <p>①自己実現の支援 ②介護実践の原則 ③社会福祉士及び介護福祉士法の改正 ④チームケア ⑤介護の専門性</p>

②介護職の職業倫理	2.0 時間	1.5 時間	0.5 時間	4	<p>【面接授業】 《講義内容》</p> <p>1. 専門職の倫理の意義、介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重について学ぶ</p> <p>【添削課題の出題ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理 ・専門職の職業倫理の意義 ・介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度） ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護・尊重
③介護における安全性の確保とリスクマネジメント	1時間	0時間	1時間	5	<p>【添削課題のポイント】</p> <p>①高齢者の特性の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保 ・事故に結びつく要因を探り対応していく技術 <p>②リスクとハザード 事故防止、安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント ・危険予知訓練（KYT） ・分析の手法と視点 ・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等） ・情報の共有 <p>③感染症予防・対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染の原因と経緯（感染源の排除、感染経路の遮断）
④介護職の安全	1時間	0時間	1時間	6	<p>【添削課題のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の安全衛生に関する基礎的知識 ・ストレスナーについて ・介護職員のこころの健康管理 ・腰痛予防のための健康管理
合計	6時間	3時間	3時間		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（ 9 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	3 時間	2 時間	1 時間	7	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 介護保険制度創設の背景及び目的・動向 ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進を学ぶ</p> <p>2. 仕組みの基礎的理解 保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順を学ぶ</p> <p>3. 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 財政負担、指定介護サービス事業者の指定 介護保険の理念について学ぶ</p> <p>【添削課題のポイント】</p> <p>・介護保険制度を担う一員として介護保険制度の理念について理解する。</p>

②医療との連携	3 時間	2 時間	1 時間	8	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 医行為（医行為とは何か、喀痰吸引について）と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念を学ぶ</p> <p>2. 講師の現場体験談、視聴覚資料などから、訪問看護における在宅看護の実際について学ぶ</p> <p>《演習内容》</p> <p>事例検討を行い、在宅療養者、家族の視点から訪問看護、訪問看護の役割について学ぶ。</p> <p>【添削課題のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活を中心に考えるという視点を学び、その生活を支援するための医療との連携を学ぶ ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行なう医行為について理解する。
③障害者総合支援制度及びそのほかの制度	3 時間	0 時間	3 時間	9	<p>【添削課題のポイント】</p> <p>①障害者福祉制度の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の理念 ・ICF（机上演習） <p>②障害者総合支援制度のしくみの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで <p>③個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業
合計	9	4	5		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	3時間	3時間	0時間		<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割、相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答を学ぶ</p> <p>2. コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション 言語的コミュニケーションの特徴、非言語的コミュニケーションの特徴を学ぶ</p> <p>3. 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違いを学ぶ</p> <p>4. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、構音障害に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術を学ぶ</p> <p>《演習内容》</p> <p>1. 利用者とのコミュニケーション技術方法（質問技法・繰り返し技法等）、（傾聴・共感・受容）のプロセスをロールプレイする。ロールプレイの中から気づいたコミュニケーションの取り方についてグループ討議を行う。</p>

②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	3時間	0時間	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 記録における情報の共有化 介護における記録の意義・目的、利用者の状態をふまえた観察と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）、ヒヤリハット報告書（5W1H）について学ぶ</p> <p>2. 報告 報告の留意点、連絡の留意点、相談の留意点について記録することを学ぶ</p> <p>《演習内容》 記録情報の共有の必要性・記録の意義（事故報告書・ケア記録・申し送り記録書・カンファレンス書類など）報告・連絡・相談などの書面を用いた事例からチームケアの実施方法を演習する。</p>	
合計	6	6	0		
6 老化の理解（ 6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要

<p>①老化に伴うこころとからだの変化と日常</p>	<p>3時間</p>	<p>1.5時間</p>	<p>1.5時間</p>	<p>10</p> <p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 老年期の人たちと老化に伴う心身の変化と特徴 防衛反応（反射）の変化、喪失体験を学ぶ</p> <p>2. 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響について学ぶ</p> <p>《演習内容》</p> <p>老化に伴う心身の変化により生じる喪失感・無力感や日常生活の変化、周囲との関係性の変化など講義の内容と講義では出なかった部分につちえもグループディスカッションを行い、日常での心理的变化に気づく視点をもつ。</p> <p>【添削課題出題ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、心理的特徴などを理解
----------------------------	------------	--------------	--------------	---

②高齢者の健康	3 時間	1.5 時間	1.5 時間	11	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 高齢者の疾病と生活上の留意点 骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛について学ぶ</p> <p>2. 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）循環器障害の危険因子と対策、老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に「訴え」の多さが前面に出る、うつ病性仮性認知症）、誤嚥性肺炎、症状の小さな変化に気づく視点、高齢者は感染症にかかりやすい等を学ぶ</p> <p>《演習内容》</p> <p>事例を挙げ、高齢者の変化に気づく着眼点等についてグループ討議を行い、発表する</p> <p>【添削課題】</p> <p>・ 高齢者に多い疾病の種類とその症状や特徴及び治療・生活上の留意点などの理解</p>
合計	6	3	3		

7 認知症の理解(6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	1 時間	1 時間	0 時間		<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 認知症ケアの理念</p> <p>パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点（できることに着目する）を学ぶ。</p> <p>《演習内容》</p> <p>・認知症ケアの理念について討議する。</p>
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 時間	2 時間	0 時間		<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</p> <p>記憶の作られ方、認知症の定義、物忘れとの違い、せん妄の症状、健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、治療、薬物療法、認知症に使用される薬について学ぶ</p> <p>《演習内容》</p> <p>1. 認知症の原因となる主な疾患について各々の経過や症状についてグループディスカッションでまとめ、生活の中に起こっている認知症の症状と物忘れの違いを検討する。</p>

③認知症に伴うところとからだ日常生活	2時間	2時間	0時間	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴 認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状（BPSD）、不適切ケア、生活環境での改善について学ぶ</p> <p>2. 認知症の利用者への対応 本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであるという考え方、身体を通したコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察すること、認知症の進行に合わせたケア、認知症になっても「生活者として人を見る」視点を学ぶ。</p> <p>《演習内容》 認知症の周辺症状と中核症状を学び、利用者の不安を取り除く援助方法を学び、講師がモデルとなって声かけ方法、援助方法を実践形式で行う。</p>
④家族への支援	1時間	1時間	0時間	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》 家族の負担感、認知症の受容の過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）を学ぶ</p> <p>《演習内容》 家族の負担や不安な気持ちを考察、身体的、精神的ストレスの軽減方法を検討し、介護保険制度の利用、職員のかかわり方についてディスカッションする。</p>
合計	6	6	0	
8 障害の理解（4.5時間）				

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	1時間	0時間	1 時 間	12	<p>【添削課題のポイント】</p> <p>(ア) 障害の理念の I C F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C F の分類と医学的分類 ・ I C F の考え方 <p>(イ) 障害者福祉の基本理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノーマライゼーションの概念
②障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2時間	1.5時間	0.5時間	13	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各障害の内容、特徴および障害に応じた社会支援の考え方について学ぶ。 ・ 基本的な介護の考え方について学ぶ。 <p>【添削のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解ができる。 <p>(ア) 身体障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障害 ・ 聴覚・平衡障害 ・ 言語・咀嚼障害 ・ 肢体不自由 <p>(イ) 知的障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的障害 <p>(ウ) 精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統合失調症・気分(感情障害)・依存症などの精神疾患 ・ 高次脳機能障害 ・ 広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動障害などの発達障害 <p>(エ) その他の心身の機能障害</p>

③家族の心理、かかわり支援の理解	1.5時間	1.5時間	0時間	<p>【面接授業】</p> <p>《講義》</p> <p>1. 家族への支援 障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減と家族支援の考え方について学ぶ。</p> <p>《演習内容》</p> <p>事例を用いて、障害の理解・需要についてロールプレイを行い、障害の受容について検討する。</p>
合計	4.5	3	1.5	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75.5 時間)						
基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
		①介護の基本的な考え方	3 時間	2 時間	1 時間	14

	<p>②介護に関するこころのしくみの基礎的理解</p>	<p>4 時間</p>	<p>3 時間</p>	<p>1 時間</p>	<p>15</p>	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》 学習と記憶の基礎的知識、感情と意欲の基礎的知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、心の持ち方が行動に与える影響、からだの状態が心に与える影響、こころとからだがい欲や行動に与える影響を学ぶ</p> <p>《演習内容》 老化による障害の適応行動と阻害要因をグループワークで検討する。</p> <p>【添削課題のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こころとからだがい欲や行動に与える影響と支援について心理面から理解することができる。
--	-----------------------------	-------------	-------------	-------------	-----------	--

	<p>③介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p>	<p>3.5時間</p>	<p>2.5時間</p>	<p>1時間</p>	<p>16</p>	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>1. 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する知識、こころとからだを一体的に捉える。バイタル測定など利用者の変化の兆しに気づくという視点を学ぶ</p> <p>《演習内容》</p> <p>2. バイタルサイン（生命徴候）を観察して、日々のバイタルチェック表からの違いを探す。体温計、脈拍計・サチュレーション等の使用方法を学ぶ</p> <p>【添削課題ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点
--	-----------------------------	--------------	--------------	------------	-----------	---

<p>生活支援技術の講義・演習</p>	<p>④生活と家事</p>	<p>2時間</p>	<p>2時間</p>	<p>0時間</p>	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援</p> <p>・生活歴、自立支援、予防的対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値等を学ぶ。</p> <p>《演習内容》 生活能力を高める介護知識・技術を理解し、利用者と共同で行える環境づくりと、残された能力を活用する代表的な支援サービス（洗濯・掃除・食事作り・買い物など）をグループで討議する。</p>
---------------------	---------------	------------	------------	------------	--

	⑤快適な居住環境整備と介護	3時間	2時間	1時間	17	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者、障害者の住環境整備と留意点について学ぶ。 ・ 家庭内で起きやすい事故のポイントを確認する。 <p>《演習内容》</p> <p>家庭内を想定し、ベッド、車イスを使用し、実際のバリアフリーポイントを確認する。</p> <p>【添削課題ポイント】</p> <p>利用者の身体状況に合わせた介護、環境整備についてポイントをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 快適な居住環境に関する基礎的知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法等 ・ 家庭内に多い事故 ・ バリアフリー ・ 住宅改修 ・ 福祉用具貸与
--	---------------	-----	-----	-----	----	---

	<p>⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	4 時間	3 時間	1 時間	18	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>整容に関連する基礎知識、整容の支援技術、身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身支度、整容行動 整髪・爪切り、洗面の意義・効果について学ぶ</p> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱の実技演習を行う。 ・整髪・爪切りの実技を行う。 <p>【添削課題のポイント】</p> <p>装うことや整容の意義について理解し、指示や根拠に基づいて考えることができる。</p>
--	-------------------------------------	------	------	------	----	--

	<p>⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	6時間	6時間	0時間	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識、多様な移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援について学ぶ ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点、利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援、重心・重力の動きの理解、ボディメカニクスの基本原則、移乗介護の具体的な方法（車いすへの具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車椅子・洋式トイレ間の移乗）、移乗介助（車いす・歩行器・杖等）、褥瘡予防について学ぶ <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクスの実技演習を行う ・立ち上がりの実技演習を行う ・歩行介助の実技演習を行う ・杖歩行の実技演習を行う ・視覚障害者の歩行介助の実技演習を行う ・階段歩行介助の実技演習を行う ・起き上がりの実技演習を行う ・ベッドから車いす・椅子から車いす介助の実技演習を行う。 ・体位変換の実技演習を行う。 ・車いす介助の実技演習を行う。
--	--	-----	-----	-----	---

	<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	4 時間	3 時間	1 時間	19	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関連する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点の支援について学ぶ ・食事に関する意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養の弊害、脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み、食事の環境整備（時間・場所等）、食事に関する福祉用具の活用と介助方法、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防について学ぶ <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケア・摂食嚥下食事介護に関する技術演習を行う。 <p>【添削課題のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の意味と食事を取り巻く環境を理解する。 ・食事に関するからだのしくみを理解する。
--	-------------------------------------	------	------	------	----	---

	<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7 時間	6 時間	1 時間	20	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関連した基礎的知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学ぶ ・羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清拭（身体状況の確認、室内環境の整備、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、目、鼻腔、耳、爪の清潔方法、陰部洗浄（臥床状態での方法）、足浴・手浴・洗髪について学ぶ <p>《演習方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身浴の技術演習を行う。 ・足浴の実技演習を行う。 ・手浴の実技演習を行う。 ・全身清拭の実技演習を行う。 ・洗髪の実技演習を行う。 <p>【添削課題のポイント】</p> <p>入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具、入浴に関するからだの仕組みの基礎的な理解ができる。</p>
--	--	------	------	------	----	--

	<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7 時間	6 時間	1 時間	21	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因と理解と支援について学ぶ</p> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ誘導時のコミュニケーションの実技演習を行う。 ・ポータブルトイレの使用方法和恥ずかしくない環境づくり、パッド・リハビリパンツ・オムツ等の交換方法と交換時のコミュニケーションの実技演習を行う。 <p>【添削課題のポイント】</p> <p>排せつの意味と排せつを取り巻く環境整備や関連した用具、排せつに関するからだの仕組みを理解することができる。</p>
--	-------------------------------------	------	------	------	----	---

	<p>⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	6 時間	5 時間	1 時間	22	<p>【面接授業】</p> <p>《講義内容》</p> <p>睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因と理解と支援方法について学ぶ</p> <p>《演習内容》</p> <p>安眠のための環境整備（ベッドメイキング、温度や湿度、光、音などの調整）と褥瘡防止のための、福祉用具を使用した体位交換方法の実技演習を行う</p> <p>【添削課題のポイント】</p> <p>睡眠の意味と排せつを取り巻く環境整備や関連した用具、排せつに関するからだの仕組みを理解することができる。</p>
--	-------------------------------------	------	------	------	----	--

	<p>⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護</p>	<p>3 時間</p>	<p>1.5 時間</p>	<p>1.5 時間</p>	<p>23</p>	<p>【面接授業】 《講義内容》 1. 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ生から死への過程、「死」に向き合う心の理解、苦痛の少ない死への支援、終末期ケアとは、高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、臨終が近づいたときの兆候と介護、介護従事者の基本的態度、多職種間の情報共有の必要性について学ぶ</p> <p>《演習内容》 1. 講師の体験した事例を通し、利用者や家族に対する介護従事者の基本的態度を理解する。</p> <p>【添削課題】 ターミナルケアの考え方、対応の仕方、留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や多職種との連携の基礎的な理解ができる。</p>
<p>生活支援技術演習</p>	<p>⑬介護過程の基礎的理解</p>	<p>6 時間</p>	<p>【面接授業】 《講義内容》 介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチを学ぶ 《演習内容》 個別援助計画の立て方、個別援助計画書の作成を実施する。</p>			

	⑭総合生活支援技術演習	6時間	【面接授業】 (事例による展開) 生活の各場面での介助について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ・事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例 2.75) 時間程度のサイクルで実施する) ・事例は高齢者(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施
実習		12時間	【実習】 通所介護(6時間×1日) 訪問介護(6時間×1日) 【実習内容】 利用者とのコミュニケーションを通し、高齢者の心理を理解する。 可能な限りの介護実習を行い、技術を習得する。
	合計	75	
10 振り返り(時間)			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り		3時間	【面接授業】 《演習内容》 ・研修を通じて学んだこと、研修を通じて学んだこと今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)について振り返りを行う ・振り返りシートを記入後、それぞれの課題について意見交換する。

②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1時間	【面接授業】 《講義内容》 ・継続的に学ぶべきこと、継続的に学ぶべきこと研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（OJT、OFF-JT）を紹介する。
合計	4	
全カリキュラム合計時間	132時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること